

地域の情報をつなげて耕作放棄地を解消

隠岐の島町農林水産課、真杉集落



1. 取り組みの概要

島根県隠岐の島町にある真杉集落では、集落で問題になっていた耕作放棄地を企業の協力により解消されました。

この取り組みは、耕作放棄地の解消に悩む集落の課題と、畜産のための草の確保に悩む企業の課題を隠岐の島町農林水産課が把握し、両者をつなげることで実現したものです。耕作放棄地の解消では、このように農地の需要と供給を円滑につなげることが重要です。

また、島内の神社の萱葺き屋根の葺き替えがあり、耕作放棄地に自生した萱が利用され、これを機会に耕作放棄地が解消されました。この取り組みも、地域のつながりがあって実現したものです。

これらの取り組みについて、隠岐の島町農林水産課と真杉集落にお話しをお聞きしました。

2. 耕作放棄地解消の取り組み

● 耕作放棄地を解消する様々なきっかけ

—どのような事情で耕作放棄されていきましたか。

集落 どこも高齢化して、耕作放棄した農地があちこち出てきた。圃場整備をした田でも、湿田で排水が良くないため耕作放棄されていた田もある。

農家も出来るだけ頑張っているが、米価が安いから生産しても赤字になる。田を借りて耕作している農家は、生産をしても赤字になるなら田を返そうかという話も出ている。



十数年放棄されていた耕作放棄地

—耕作放棄地はどのような問題になっていきましたか。

集落 草が生えたままだと、カメムシなど害虫が多くなる。地域で一斉防除をしても、耕作放棄地にカメムシが集まり、防除できない。



耕作放棄地の復旧作業

また、水路が崩れてしまうこともある。

道のすぐそばにあり、景観を悪くする耕作放棄地もあった。

—耕作放棄地を復旧されるきっかけは。

隠岐の島町 平成18年に企業が農業に参入した。この企業は畜産をするため、草が必要という相談が町にあった。

集落からも常々、耕作放棄地が何とかならないかと相談を受けていたので、企業に対して「真杉集落には耕作放棄地があって草がある」という情報を提供し、誘導した。

—どのように耕作放棄地を復旧されましたか。

隠岐の島町 参入した企業に復田してもらった。

集落 企業は畜産のための草が必要だったので草刈りをしていただいた。作業の報酬は草の現物を持って帰ってもらった。地域にとってはお金がかからず綺麗になるので助かり、企業は刈りやすい場所で多くの草を得ることができる。また、バックホーで排水路も掘っていただいた。

—他には、どのような農地が耕作放棄されていましたか。

集落 川のそばに田があり、堤防に生えていた竹が田にも入り込んできて、田の大部分が竹に覆われてしまった。何とかしなくてはいけなかったが、荒れてしまうと借りる人がいなかった。萱もたくさん生えて困っていた。

町内に萱葺き屋根の神社があって、葺き替えではその田の萱を使っていただいた。この時は、町からの紹介ではなく神社の方が直接来られて、「あそこの田は誰の？」というので所有者につなぎ、解消につながった。丁度葺き替えの時期が来ていて良かった。



—この時の復旧作業はどのようにされましたか。

集落 町内の土建業をしている畜産農家の方に協力していただき、機械で萱を刈っていただいた。トラクターで整地もしていただき、綺麗になって喜んだ。業者なので、良い機械を持っている。萱でも見事に刈っていただいた。農業用機械ではできない。

他の場所でも、耕作する方がいないため荒れている場所があった。農家の方が亡くなられて後継ぎがないため荒れるところが多い。たまたま、畜産をされている方が牧草が欲しいということで耕作して、採草放牧地をしているところもあるが、綺麗になって喜んでいる。

集落の真ん中に耕作放棄地はないが、端からそういう耕作放棄地が出てくる。



復旧後（白小豆を作付け）

—耕作放棄地を復旧しても、誰が何を作付けするか悩む場合が多いようですが。

集落 企業が牧草を植えているところもあるし、隠岐の島町農業公社が小豆を作るといって耕作してもらっているところもある。

また、この集落には認定農業者が1人いて、その方に集積している。このあたりはほとんど、その方が作業受託している。